



研修のあり方について～兵庫県内教育研究所連盟理事会より

NITS戦略（ミッション） ～新たな学びへ～



「研修観の転換」の実現に向けて 独立行政法人教職員支援機構 専門職員 宮久保 雅行 氏

- ・互いの価値観や経験、思いを聞き合う ➡ **結論や答えを急がない**
- ・違いを楽しむ ➡ **自身の価値観を一旦リセットする**

★【子供の学び＝**学習観の転換**】と【教職員の学び＝**研修観の転換**】は相似形である。

【研修に取り組む際に意識したいポイント】

- ・研修を行って、子どもの学びに変化はあるのか？
- ・自分事になる学びとは？
- ・教職員の学びに向かう共通の言語は？
- ・自身について豊かな気づきとは？

【研修のデザイン例】

- ① **内 省**…例：「これまで教職員としてどのように力を高めてきたか」について整理
- ② **対 話**…自分の考えや気づきを参加者と共有し、対話することで深める。
- ③ **問いかけ**…数種類の自己啓発資料（A4 1枚分程度）を読み、心にとどまった内容についてまとめる。
- ④ **対 話**…資料の内容について共有し、対話することで深める。

今回のデザイン例では、①～④のサイクルを通して、テーマに対する方向性や取り組む内容をグループ全体で共有するものでした。各校において、校内研修等の取組が軌道に乗ってきている頃だと思います。改めて、「**何のために研修をするのか、そして子どもの変容にどうつながっているのか**」について、自校の先生方と丁寧に振り返っていただければと思います。